

「たる」3月号の掲載は、心齋橋大学・大学院クラス
「高橋英樹」さんの「百花繚乱」に決定致しました！！

東京作家大学 × 心齋橋大学 共同連載
生徒が紡ぐ、“酒と人”にまつわる story

今宵の1話

第74話「百花繚乱」
文／高橋英樹（心齋橋大学）



課

長の酒井葵がオフィスに駆け込んできた。

この案に会長も喜んだ。

二人はパソコンに噛り付き在庫を調べた。

「もつと花をもつと酒屋らしく、もつと『百』を強く出せ！会長の指示なの！」

「菊政宗」「松竹梅」「黄桜」などの大手のものや「司牡丹」「菊水」「越乃寒梅」など有名銘柄が五十ほど見つかった。

パソコンで山形の銘酒・出羽桜を発注していた主任の山田清太が立ち上がった。

「足らずは、酒店を周るのよ！」

「宴会は明日です！今さら無理だ！」

二人は酒店やデパートを駆けずり回り「菊姫」「越後桜」「梅乃宿」「蒲公英」「ゆり会津」

葵と清太は榊千鳥酒販の社員である。ここ数カ月、得意先など五百名を招待する創業百

「阿部勤さぎんか」「越乃向日葵」などを見つけては購入し、合計九六を確保した。が、九

周年記念パーティーの準備に携わってきた。

時を回り、いずこの店も閉店である。あと四

社長の意見を聞きながら準備してきたのだが、ここへ来て会長から注文が入ったのだ。

つ、四つ足りない！

会長は、国内各地はもちろん米国にまで販

「あー疲れた！グイッと一杯いきませんか」

路と仕入先を拡張千鳥酒販を現在の規模にした人物で、その指示は今も絶対である。

清太はジョッキを煽る仕草をした。「そうだ！飲み屋さん周って探そうよ！」

葵は頭を掻きむしり呻りながら、俊介のパ

二人は飲み屋を巡った。が、新たな発見

ソコン上の出羽桜に目を止めた。「これ——」

はなかった。深夜二時となり、疲れ果てた二人はバーに入った。カウンター席に座った葵がバーテンの背後の棚の一点を見つめた。

「出羽桜が何か？」

「四つ、あと四つ……見つけたよ」

「桜は、花よね」

そこには、四輪の薔薇が描かれたバーボン

「桜は、花ですが……」

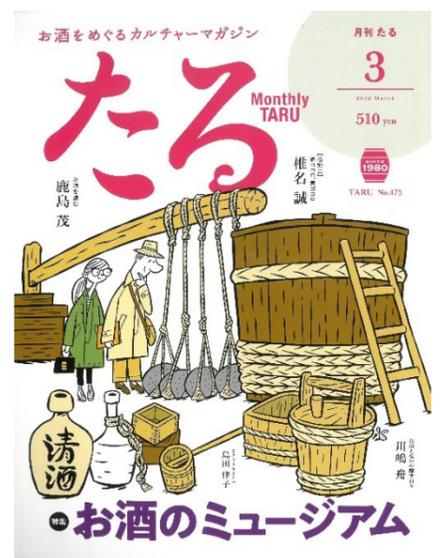
「フオア・ローゼス」が燦然と輝いていた。

「花の名の酒を百種類集めて提供するの！」

「あ——酒販会社らしいし、いいかも！」

◎選考委員の講評

面白い発想の展開と結末。
お酒の雑誌である小誌にふさわしい作品となっていると思う。



ご応募の先着 20 名様に月刊「たる」を進呈しております。
是非ご応募下さい。また、特別価格 510 円⇒400 円にて販売もしております。